

2026年3月期(2025年度) 決算説明会資料

2026年5月11日

住友バークライト株式会社

代表取締役社長 鍛冶屋 伸一



2026年3月期(2025年度) 決算概要

2026年3月期 連結業績 (前年との比較)

(金額単位: 億円)

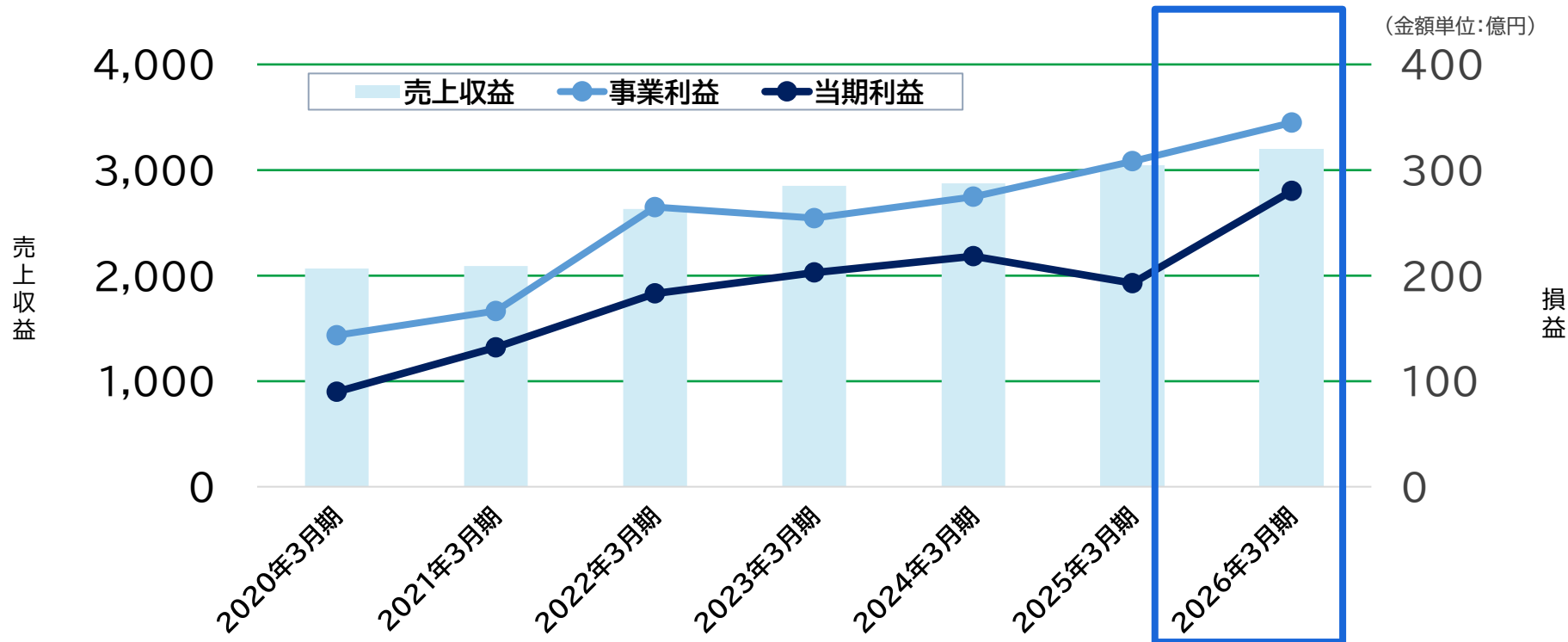
	2025年3月期 実績①	2026年3月期 実績②	前年同期比較	
			金額(②-①)	増減率
売上収益	3,048	3,199	151	5.0%
事業利益 ^{※1}	308	345	37	11.8%
営業利益	248	355	107	43.1%
当期利益	193	280	87	45.3%
ROE	6.5%	8.8%	-	-

※1 「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販売費及び一般管理費」を控除したベース
「当期利益」は親会社の所有者に帰属する当期利益

為替レート	2025年3月期	2026年3月期
USD(円/\$)	152.48	150.97
EUR(円/€)	163.62	174.54

売上収益・損益（年度推移）

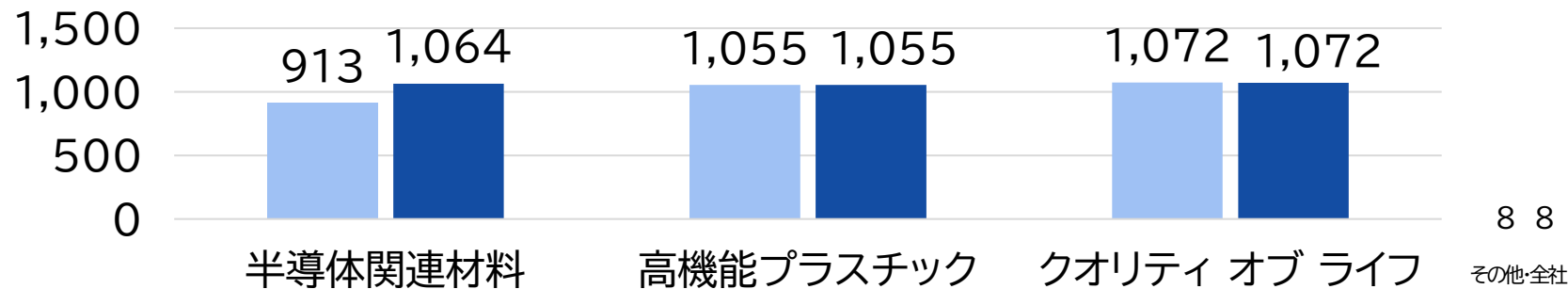
売上・利益ともに順調に伸長し、過去最高を更新



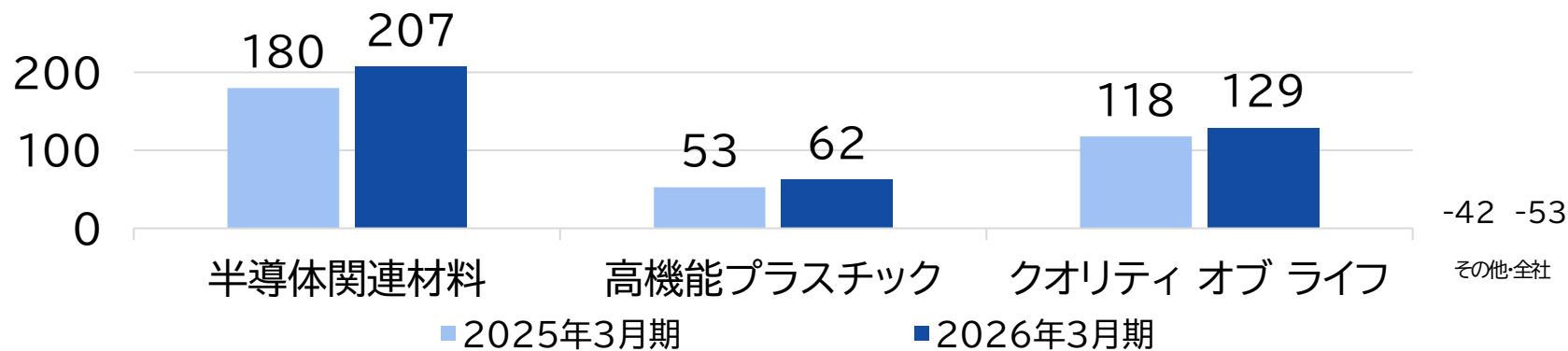
事業セグメント別業績比較

(金額単位:億円)

売上収益



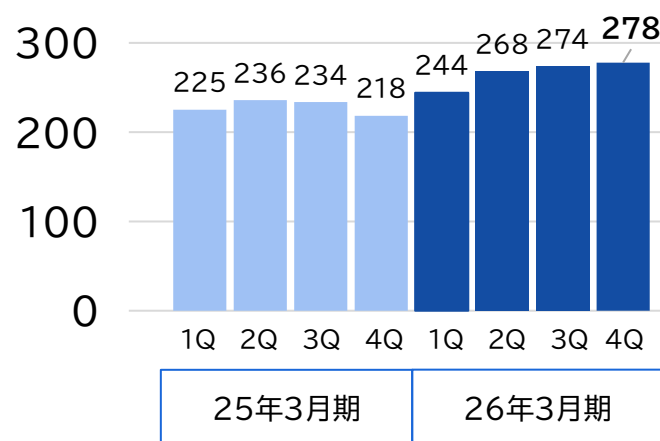
事業利益



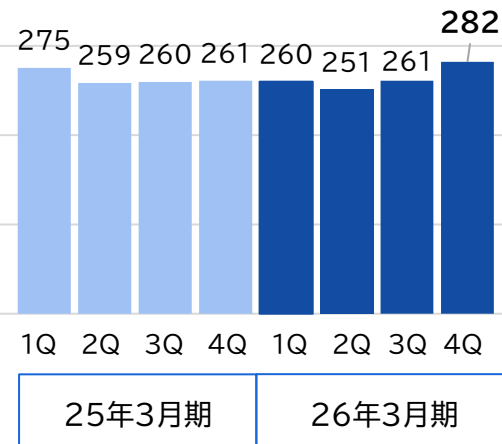
事業セグメント別 四半期販売推移

(金額単位:億円)

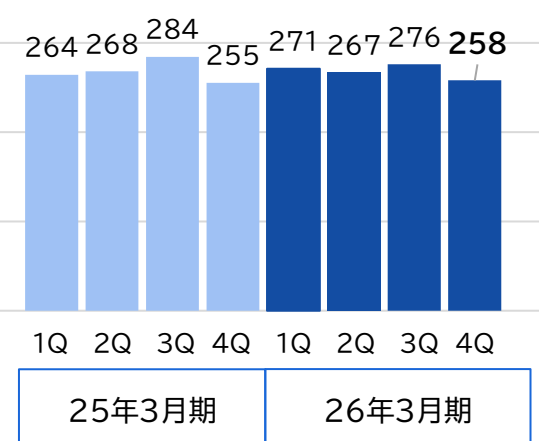
半導体関連材料



高機能プラスチック



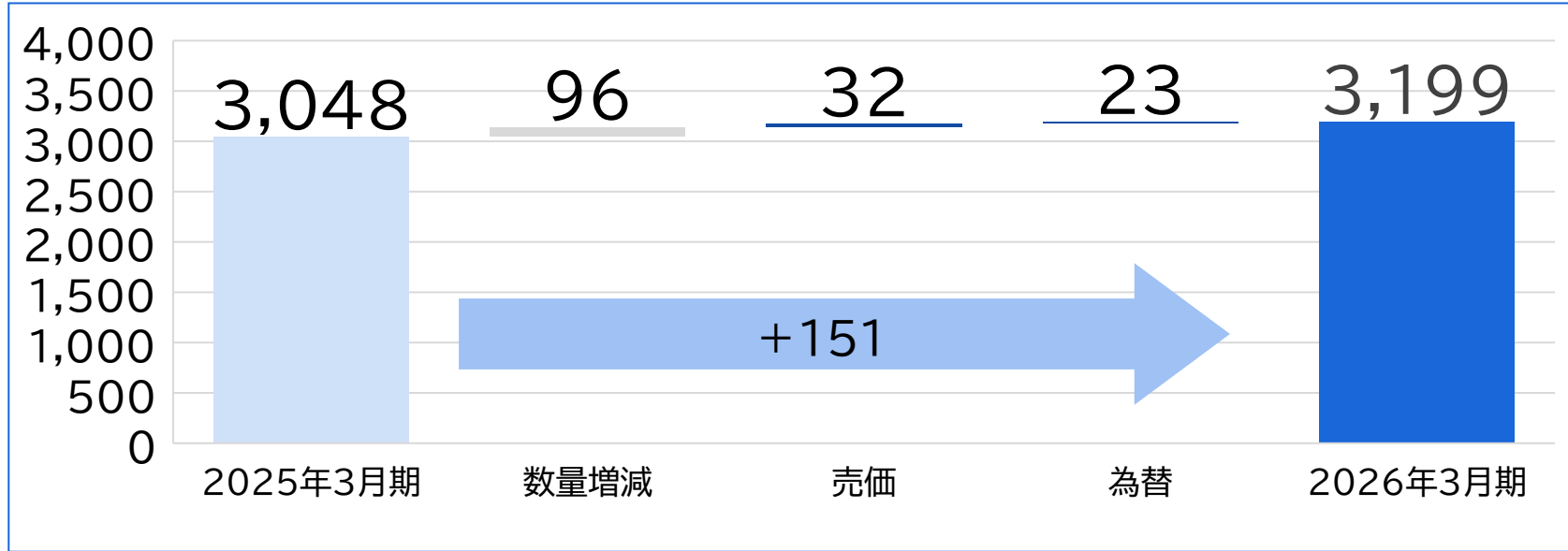
クオリティ オブ ライフ



- 半導体関連材料 : 中国・AIパワーを中心に好調、東南アジア車載用途の復調本格化、メモリー向け需要拡大
- 高機能プラスチック : 航空機向け需要回復、半導体向けが好調に推移
- クオリティ オブ ライフ : 季節性要因による減少があるが、医薬品包装用フィルム・シートを中心に堅調

売上収益増減要因(前年との比較)

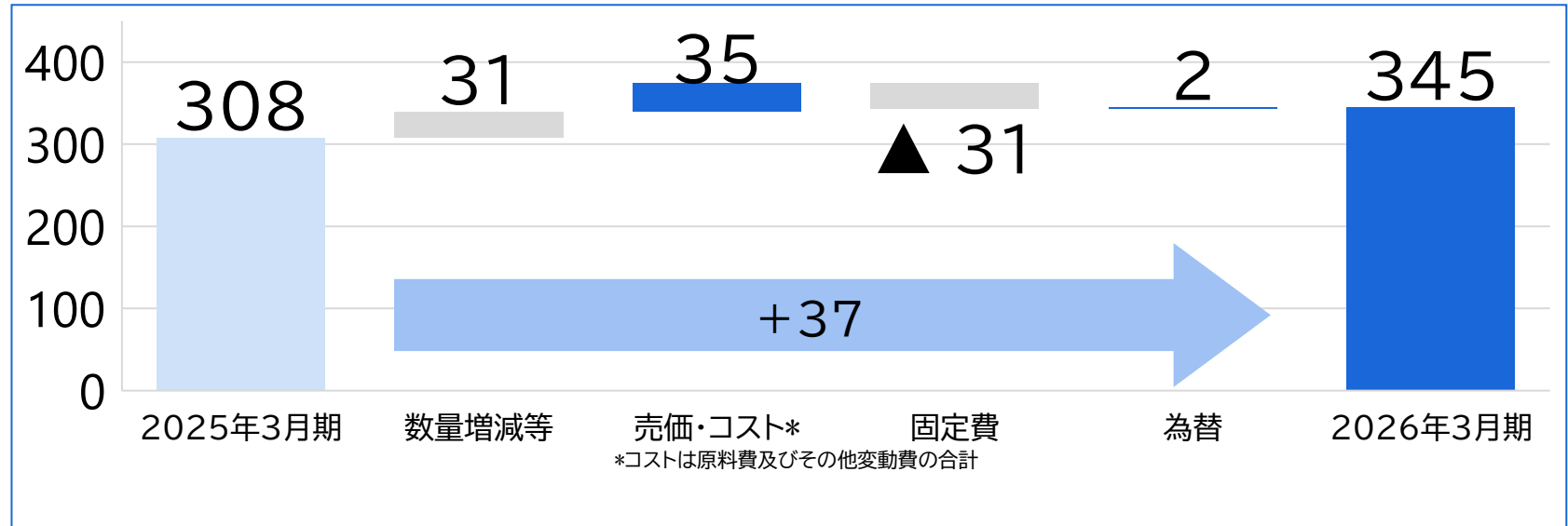
(金額単位:億円)



セグメント別	数量増減	売価	為替	合計
半導体関連材料	122	20	9	151
高機能プラスチック	▲12	▲2	14	0
クオリティ オブ ライフ	▲14	14	0	▲0

事業利益増減要因(前年との比較)

(金額単位:億円)



セグメント別	数量増減等	売価・コスト*	固定費	為替	合計
半導体関連材料	45	▲1	▲16	▲0	27
高機能プラスチック	▲1	22	▲13	1	10
クオリティ オブ ライフ	▲13	14	10	0	11
その他	1	0	▲12	▲0	▲12



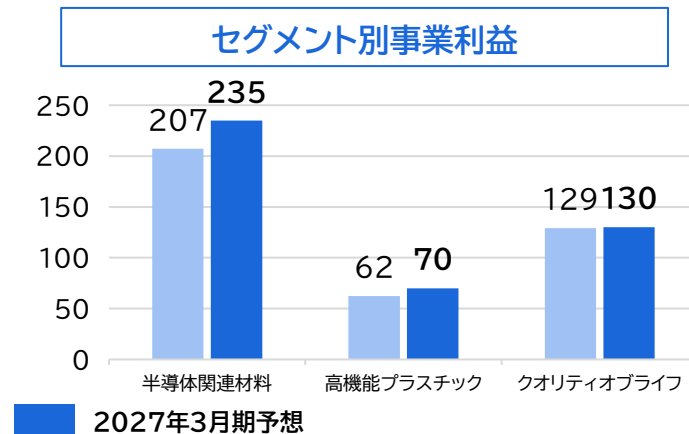
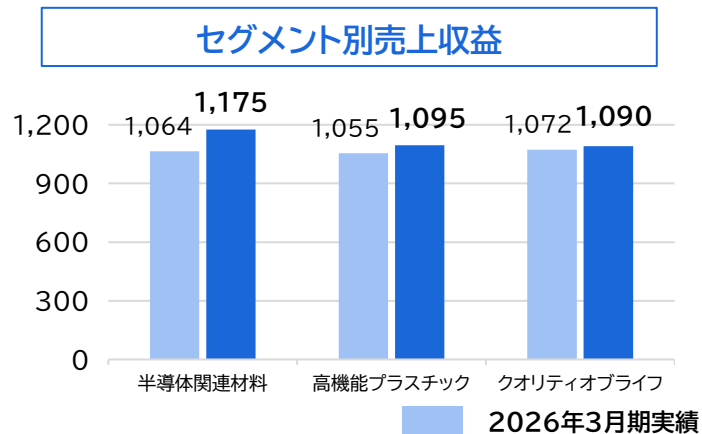
2027年3月期(2026年度) 通期業績予想

2027年3月期 通期 連結業績予想

(金額単位:億円)

	2026年3月期 実績①	2027年3月期 予想②	前期実績比較	
			金額(②-①)	増減率
為替(円/USD)	150.97	155.00	-	-
売上収益	3,199	3,370	171	5.4%
事業利益	345	380	35	10.2%
営業利益	355	375	20	5.7%
当期利益	280	285	5	1.7%

※「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除したベース。「当期利益」は親会社所有者に帰属する当期利益

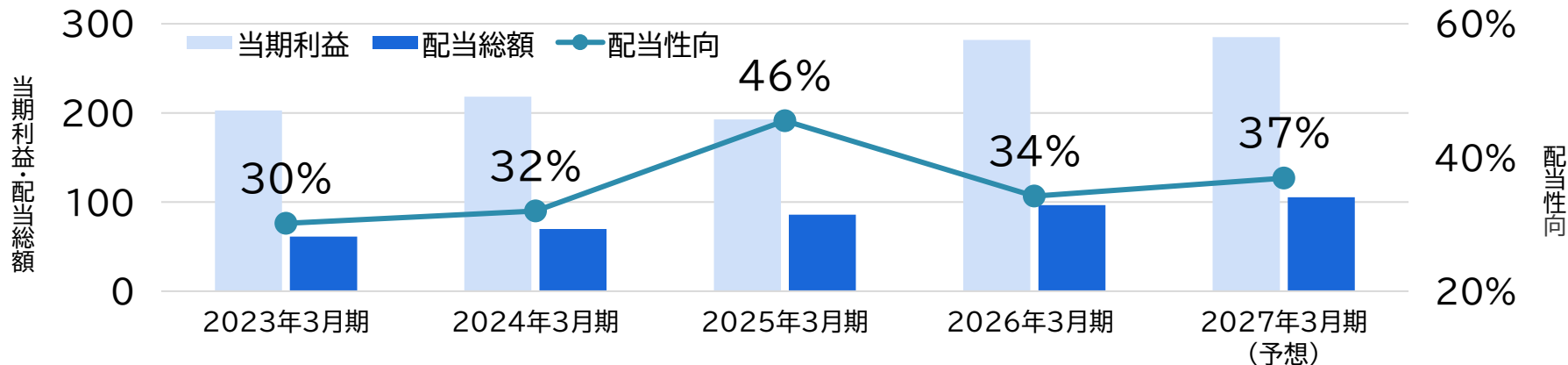


株主還元

■ 年間配当予想: 120円/株 (中間60円・期末60円)

1株当たり配当予想は前年度から10円増配

(金額単位:億円)



安定的かつ継続的に利益を還元する

配当金 (円/株) ^{※1}	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 (予想)
中間配当	30.00	35.00	45.00	50.00	60.00
期末配当	35.00	40.00	50.00 ^{※2}	60.00	60.00
年間配当	65.00	75.00	95.00	110.00	120.00

※1: 2024年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。上記の配当金(円/株)は、2023年3月期の期初に当該株式分割が行われたと仮定し、算出しております。

※2: 創立70周年(2025年3月1日)記念配当5円を含みます。



中期経営計画の進捗

キャッシュアロケーションについて

2030年ありたい姿

事業利益 550億円 事業利益率 13% ROE 10%

「資本コスト」を踏まえて経営資源を配分(2024-26年度)

設備投資 500億円

成長投資 200億円
・DX推進
・能力増強

戦略的投資 500億円
・M&Aの実施
(京セラ、AGC等)

株主還元 300億円

株主還元方針(2024-26年度)

“安定的かつ継続的に利益を還元する”
配当性向: **40%程度を目指す**

➔ 中期計画通りに推進中

経営の重要課題

2030年ありたい姿の達成に向けて、12の経営の重要課題に取り組む



環境・社会価値の創造

カーボンニュートラルへの取組み
 ・技術・製品開発 ・GHG排出量削減

GHG排出量
 2030年削減目標:48%削減(2021年度比)

2025年度見込み:52%削減

※2026年度目標:54%削減

SDGs貢献

「6+1」の重点領域を設定し、SDGs貢献を推進
 SDGs貢献製品 売上収益比率
 2030年度目標:70%

2025年度見込み:68.7%

価値創造のアクセラ



顧客との共創



イノベーション



人的資本(人材の活躍)経営



DX

事業を継続する基盤



安全衛生



サイバーセキュリティ



製品責任



人権尊重



コンプライアンス



サステナブル調達



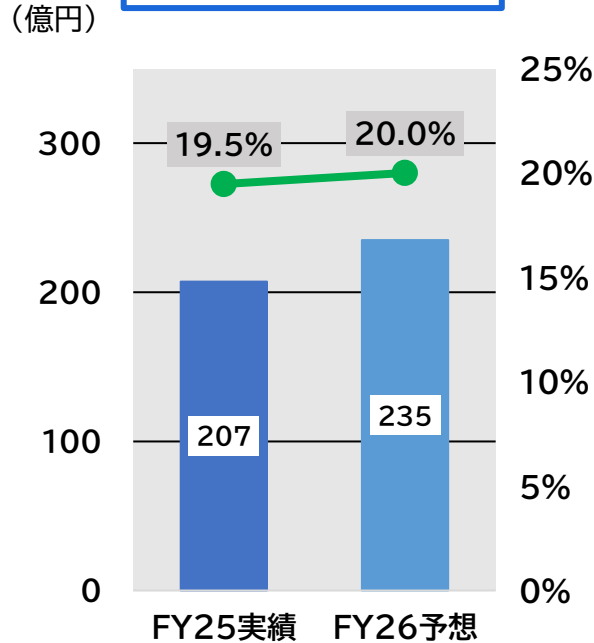
コーポレートガバナンス



各セグメントの振り返りと今期の取り組み

半導体関連材料

2026年度予想
事業利益 235億円
 事業利益率 20.0%
 (売上収益 1,175億円)



事業利益・事業利益率

2025年度の総括

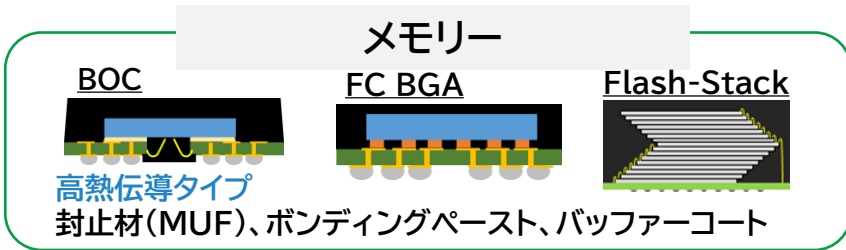
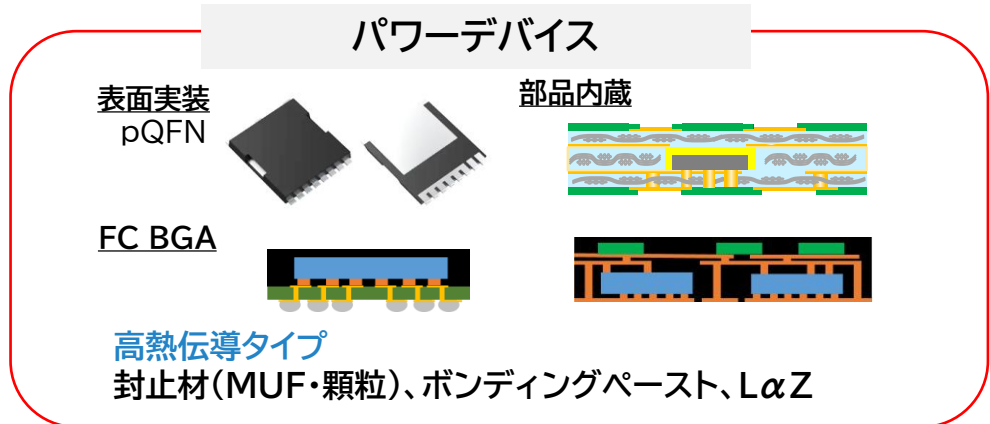
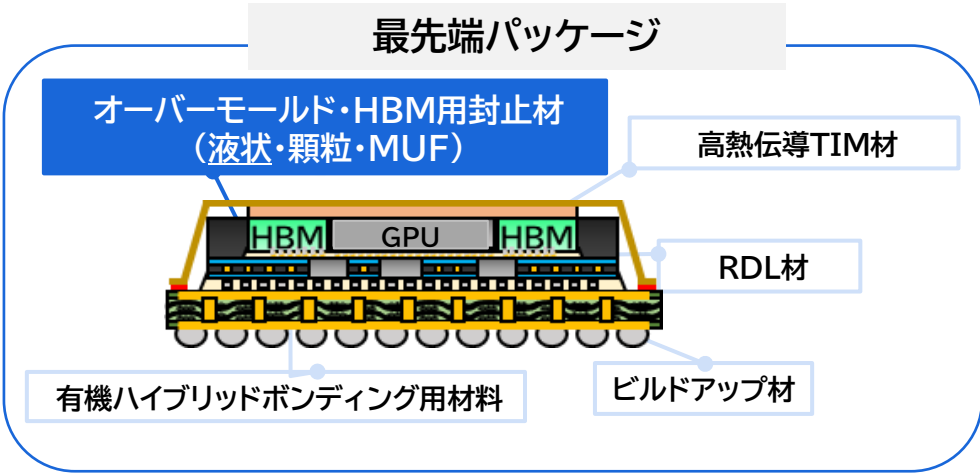
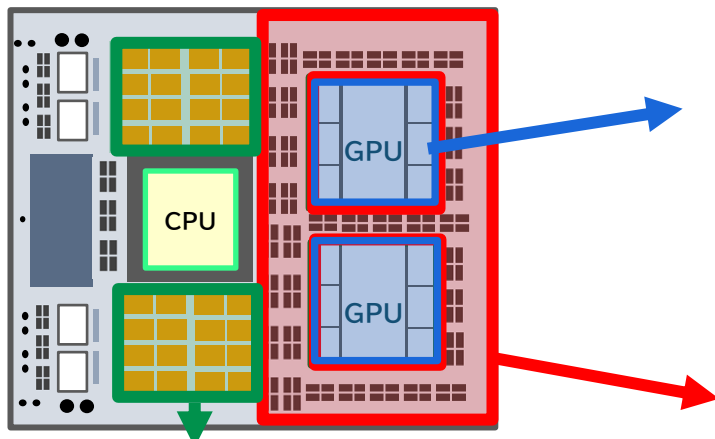
- 中国は半導体国産化推進により拡大継続
- AIサーバー：
 パワー用高熱伝導材(封止材・ボンディングペースト・LαZ)、
 メモリー用封止材・感光性材料の需要が拡大
- エッジAI: MUF・顆粒が好調
- モビリティ3製品は、北米向け日系HEVが好調、中国への拡販進む

2026年度の見通し、取組み

- AIサーバー (パワー・メモリー)需要拡大を中心に伸長
- AI半導体 液状封止材の顧客評価開始
- 拡大続く中国で新工場の認定完了、盤石な体制を確立
- 京セラから譲受したビジネスとのシナジー創出 (AI・高熱伝導)
- ヒューマノイドロボット用ステーター封止材量産開始

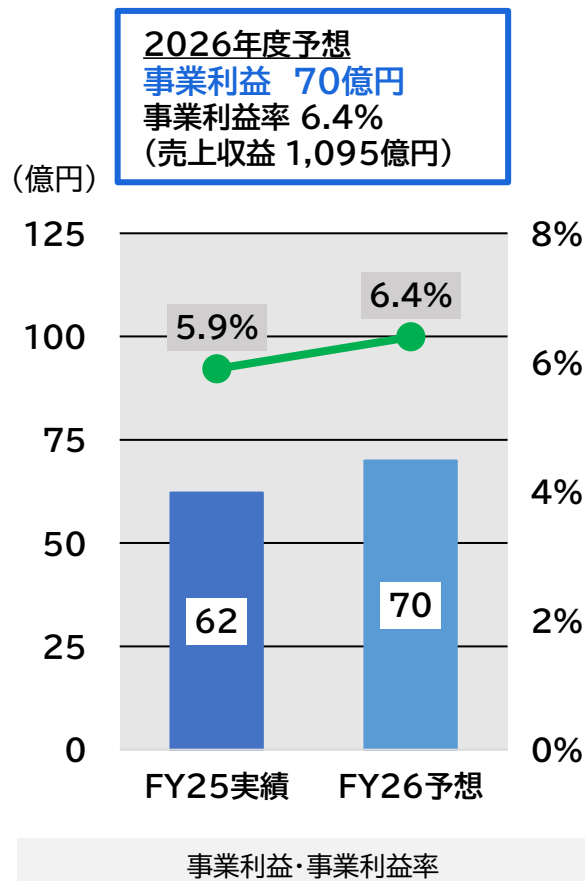
半導体関連材料【トピックス】

京セラ技術とのシナジーで
AIサーバー用半導体材料の開発加速



多様な製品ラインナップで、AI半導体の進化を支える

高性能プラスチック



2025年度の総括

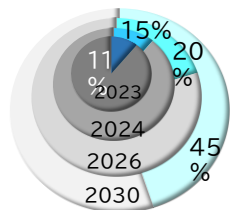
- 北米を中心に構造改革が進展
北米フェノール関連事業の採算性改善、アジアの生産拠点再配置 など
- アジア事業は好調だが、欧米は自動車市場の停滞の影響を受ける
- 航空機部品は需要が復調
- 強化領域での高付加価値新製品は順調に拡大
放熱絶縁シートが車載パワーモジュールで量産スタート

2026年度の見通し、取組み

- 北米フェノール樹脂事業を中心にグローバルで構造改革を継続
- 航空機部品は顧客の増産基調継続、バイオ由来PFALレジンの評価拡大
- COPLUS®は旺盛な需要に対応し、生産能力増強
- 高付加価値新製品の採用増、販売拡大を進める
AQNOA®、放熱絶縁シート、パワーモジュール用材料 など

高性能プラスチック【トピックス】

高付加価値製品へのポートフォリオ変革



強化領域(半導体・モビリティ等)の
売上比率は上昇

2025年度実績は17%

2026年度は中期計画目標の20%
を目指す

中期計画
強化領域売上収益比率

放熱絶縁シート材料



セラミックス基板代替
モジュール構造の設計自由度UP

放熱絶縁シート材料




電動車向けに樹脂放熱基板として世界初の採用
海外拡販、新用途(インフラ、産業機械等)へ拡大

2030年度 売上収益50億円を目指す

既存の壁を打ち破る2つの革新的ポリマー

半導体向け:COPLUS®

 独自のモノマー技術を生かした高耐熱かつ透明な樹脂
COPLUS 分子設計自由度が高く、さまざまな機能をプラス(PLUS)

AI半導体や次世代ディスプレイで順調に実績化
幅広い用途で引合い強く、2026年度生産能力増強へ

2030年度 売上収益50億円を目指す

環境対応:AQNOA®



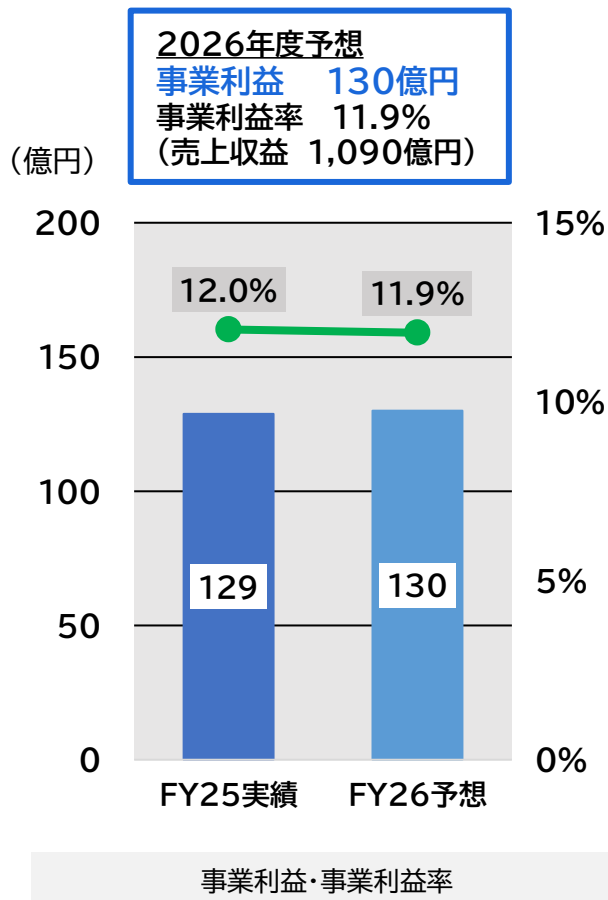
フェノール樹脂の基本機能	
熱硬化性	耐熱性
耐水性	難燃性

世界初! 超低モノマー水溶性の特徴	
水溶性	フェノールホルムアルデヒド <0.1%
非劇物	

2025年度より販売実績化
新規用途開拓・ラインナップ拡充でグローバル展開
(建築・塗料・燃料電池・半導体関連等)

2030年度 売上収益15億円を目指す

クオリティオブライフ関連製品



2025年度の総括

- 【ヘルスケア】構造改革、製品ポートフォリオ改革の推進
北米・タイでの工場閉鎖・統合、不採算製品撤退、低侵襲ラインナップ拡充 など
- 【フィルム・シート】ジェネリック医薬品向け包装材の好調継続
- 【産業機能性材料】欧州向け車載HUD用光学シートが順調に拡大
- 【防水関連】ロボティクス化による生産性向上とリフォーム需要の拡大

2026年度の見通し、取組み

- 【ヘルスケア】低侵襲治療領域でのラインアップ拡充、能力増強を進める
医療機器・S-BioでOne Healthcareを推進
- 【フィルム・シート】産業用フィルムの中国・東南アジアでの拡販
- 【産業機能性材料】AGC譲受事業のシナジーでポートフォリオ変革加速
- 【防水関連】新築需要減を住宅リフォーム向けと環境対応製品で補う

クオリティオブライフ関連製品【トピックス】

【ヘルスケア】

ステアリングマイクロカテーテル



新タイプの先端可動型マイクロカテーテル
北米・中国を中心に国内外の市場拡大
2026年度に国内の生産能力を増強し、
安定供給体制を確立

消化管(大腸・胃十二指腸・胆管)ステント



大腸・胃十二指腸ステント

オリンパス協働で販売チャンネル
を活かし、外資寡占の国内消化管
ステント市場でシェア奪取



胆管ステント

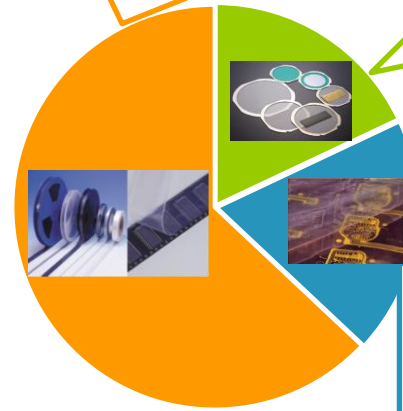
オンリーワンの弁付きステント等
用途に応じたラインナップ拡充で
拡販

【フィルム・シート】

産業用フィルムが性能優位性を活かし、
採用領域拡大と成長市場での拡販で利益成長

カバーテープ

極小電子部品向けに高付加価値品の投入
中国・東南アジア市場でのシェア拡大



産業用フィルムの販売内訳

ダイシングテープ

先端半導体領域拡大・
CIS用途展開

離型フィルム

(FPC*用離型クッションフィルム)
優れたクッション性と離型性で
ハイエンド向けに展開

*FPC: Flexible Printed Circuits
(フレキシブルプリント基板)

クオリティオブライフ関連製品【トピックス】

【産業機能性材料】

車載向け光学製品



光学シート搭載
車載HUD

AGC独自の光学技術との
シナジー創出し、HUD用光学シート
世界No.1サプライヤーへ

電子調光(エレクトロクロミック)デバイス



世界初度付きレンズ対応
樹脂電子調光アイウェア

無段階&広範囲透過率、
省電力、メモリー効果、3D形状対応

ブランドサングラス用途で製品化レベルに目途
2026年度に事業化に向けた体制を整備
2027年度からの量産開始を目指す

【防水関連】

環境製品充実で差別化推進、ポートフォリオ 変革加速



高耐久防水シート上
に施工された
ソーラーシステム

高耐久防水シート(NSJ)

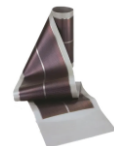
ライフサイクルコストを抑え、成長する
リフォーム市場へも展開



シート防水一体型
ソーラーアンカー

シート防水一体型ソーラーアンカー ソーラー発電素子一体型防水シート

さらなる軽量化で価値優位性を向上



ソーラー発電素子
一体型防水シート

リサイクル防水シート

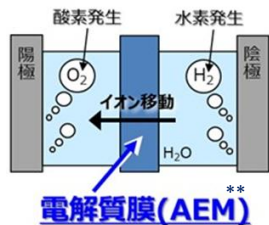
循環型社会対応の防水システム
2026年度中に量産体制構築

社会価値と企業価値を高める新製品の開発例

水素製造機能膜

グリーン水素の低コスト生産を実現し、脱炭素社会に貢献する、PFASフリー対応アニオン交換膜

- ・水電解装置メーカーで評価順調
- ・2027年度の量産化を目指す



**Anion Exchange Membrane



水素製造装置用
アニオン交換膜

脳波検知型BMI*デバイス

*Brain Machine Interface

簡便かつ快適な装着感で長時間の脳波測定を可能にする、非侵襲性BMIデバイス

- ・てんかん患者対象に2027年度に社会実装を目指す
- ・非医療分野(介護・自動車・感情読み取り等)へも展開



デザイン、使い勝手を考慮した在宅脳波計



樹脂製柔軟ドライ電極

哺乳力センサー・システム

赤ちゃんの舌の動きで吸てつ力を数値化・可視化し、産後の授乳に関する悩みを軽減するデバイス

- ・複数施設で試験導入
- ・医療・福祉分野全体への活用も推進、バイタルセンシングへ展開



「BabyTech® Awards 2025-26」
授乳と食事部門大賞を受賞



SUMITOMO BAKELITE CO., LTD.

<https://www.sumibe.co.jp/>

■ 免責事項について

当社は、本資料の情報がお客様にとって有用なものとなるよう努めておりますが、特定の用途における正確性や妥当性を保証するものではありません。ご利用にあたっては、関連する用途との適合性や安全性を別途ご検証ください。また、本資料に含まれるいかなる事項も、知的財産権等に関する助言や許可を与えるものではありません。

■ 著作権について

本資料の著作権は、特に断りのない限り、当社またその関連会社に帰属します。当社の許可なく、本資料を無断で複製または転用等することを禁止しております。

■ 会社名の表記方法について

本資料における会社名の表記にあたっては、「株式会社」等の表記を省略している場合があります。